

注染和ざらし (ゆかた) (ちゅうせんわざらし・ゆかた)



写真出典：平成 28 年度版『わたしたちのまち堺』P68 堺市教育委員会

堺では、17世紀、泉州(せんしゅう)特産の綿織物(めんおりもの)の流通経路(りゅうつうけいろ)にあったことと、大阪という大消費地に近いことから、和ざらし産業が石津川(いしづがわ)沿いでさかんになりました。その後、裏(うら)と表を同時に染(そ)める伝統の手染め技法「注染(ちゅうせん)」と結びつき、色鮮(いろあざ)やかなゆかたや手ぬぐいが生産されています。

Q. 和ざらしてなに？

A. 和ざらし(わざらし)とは、木綿(もめん)という布から不純物(ふじゆんぶつ)を取り除(のぞ)いて漂白(ひょうはく)した生地(きじ)のことで、江戸初期から水の豊富な石津川(いしづがわ)沿いで多く生産されてきたんだよ。全国の7割の和ざらしは堺でつくられているんだ。

Q. ゆかたってなに？

A. みんながお祭りのときに着る日本の伝統的な服のことだよ。ゆかたの染色業(せんしよくぎょう)が堺で発達したのは、第2次世界大戦(だいにじせかいたいせん)後のこと。大阪市内の染色業者が戦火を逃(のが)れて堺に移転してきたことにはじまるんだよ。和ざらしの発展とともに、生地に染料(せんりょう)を注いで染める手染め法が産業として堺の地に根づいたんだ。

Q. 堺のゆかたはどんな特徴があるの？

A. 伝統的な「注染(ちゅうせん)」で丹念(たんねん)に染められたゆかた地は、機械で表面だけにプリントしたものと違い、生地裏側にまでその柄が色あざやかに出ており、長く着ても色あせがないことが特長だよ。

出典：堺市ホームページ[2012/8/15 現在]

http://www.city.sakai.lg.jp/renaissance/past/04_3.html